

岡山市内の大型古墳

寒川 史也

1. はじめに

3世紀、列島の各地に前方後円墳が分布するようになります。奈良盆地に箸墓古墳が築造されたことが画期に数えられますが、以降、数百年にわたり続く古墳時代の幕開けです。現在、岡山市域には大きさが100mを超える前方後円墳が9基存在しています。これらの古墳は史跡に指定されているものから、内容的に未知なる部分を含むものまで様々です。

今回は年度当初に予定されていた「基礎講座」や、講座の共通テーマ「金蔵山と造山一墳輪から探る吉備の巨大古墳―」を視野に入れた話の構成を考えています。市内大型前方後円墳の一つ一つに焦点を当てながら現状での位置づけをみていきます。その過程において、我々の身近に存在する古墳について再発見できる点もあるかと思えます。

2. 市内大型前方後円墳の変遷

古墳時代前期でも早い段階に浦間茶白山古墳が築かれたことを皮切りに、旧国名で言うところの備前地域で大型前方後円墳の築造が集中します。やがて、古墳時代中期に入る頃には、備中側にその分布は移っていきます。例としては造山古墳を挙げることができるでしょう。つくられた古墳の時期は出土した遺物、特に資料数も多い墳輪の特徴によって推定することができます。中期に入ると須恵器も加わり、さらに詳細がはっきりするようになります。

大型古墳の分布や数について時期別の推移をみていくと、古墳時代前期後葉から中期前葉にかけて市内の大型前方後円墳築造のピークがみられます。また、時を同じくして奈良盆地や河内平野で新たに古墳群が形成され始め、他地域でも最大規模の古墳が築かれるようになります。こうした動向に関しては、地域間の結びつきに変化があったことが想定されます。4世紀には半島、5世紀には大陸といった広域にわたる内外の交渉も背景に考えられるでしょう。市内の造山古墳は、規模もさることながら周囲に他の古墳の取り巻きがあり、百舌鳥・古市古墳群中にみられる古墳づくりとも類似性をもっています。当時のヤマト王権と深いつながりを有し、その一翼を担った勢力の存在を示唆するものとなります。

3. 墳輪に関して

墳輪は円筒形のもの以外に、様々な物や人などの形をかたどった形象墳輪があります。円筒墳輪と組み合わせあって墳輪列を形成し、墳丘上を飾ったり、その場を隔絶して守護する意味合いが付与されました。形象墳輪の中で早くに成立するのは家形墳輪ですが、他に前期後葉以降に種類が増え、蓋形、盾形、鞍形、甲冑形、柵形、囿形、水鳥形墳輪などが出現します。この時期、墳丘に造り出しや島状遺構など付属施設がみられるようになりますが、墳輪の量や内容の拡充は墳丘のより一層の整備の流れと連動しています。

No	古墳名	所在地	墳長	後円部 段築	後円部 埋葬施設	外表施設	備考	参考文献
①	浦間茶白山古墳	東区浦間	140	3	竪穴式 石槨	葺石・ 特殊器台 形埴輪	1974年 史跡	宇垣匡雅 1987「吉備の前期古墳 1 浦間茶白山古墳の測量調査」『古代吉備』第9集 古代吉備研究会、近藤義郎 編 1991『浦間茶白山古墳』浦間茶白山古墳発掘調査団 真陽社
②	中山茶白山古墳	北区尾上・ 吉備津	105	2	竪穴式 石槨?	葺石・ 埴輪	宮内庁 治定	陵墓調査室 2009「大吉備津彦命墓の墳丘外形調査報告」『書陵部紀要』第61号 [陵墓篇] 宮内庁書陵部、陵墓調査室 2010「大吉備津彦命墓の遺物について」『書陵部紀要』第62号 [陵墓篇] 宮内庁書陵部
③	尾上車山古墳	北区尾上	138	3	不明	葺石・ 埴輪	1972年 史跡	水内昌康 1986「尾上車山古墳」『岡山県史』第18巻 考古資料 岡山県、寒川史也 2016「尾上車山古墳」『岡山市埋蔵文化財センター年報』15 2014(平成26)年度 岡山市教育委員会
④	神宮寺山古墳	北区中井町 1丁目	150	3	竪穴式 石槨?	葺石・ 埴輪	1959年 史跡	鎌木義昌 1962「神宮寺山古墳」『岡山市史』古代篇、神谷正義・安川 満 2007『神宮寺山古墳 網浜茶白山古墳』岡山市教育委員会
⑤	金蔵山古墳	中区沢田・ 円山	158	3	竪穴式 石槨2	葺石・ 埴輪		西谷真治・鎌木義昌 1959『金蔵山古墳』倉敷考古館研究報告 第1冊 倉敷考古館、安川 満・寒川史也 2019『金蔵山古墳—範囲確認発掘調査—』岡山市教育委員会
⑥	湊茶白山古墳	中区湊	128	3	不明、粘 土槨ほか	埴輪		安川 満ほか 2013『湊茶白山古墳—範囲確認調査報告書—』岡山市教育委員会
⑦	佐古田堂山古墳	北区平山	150	2	不明		県指定	西川 宏 1986「佐古田堂山古墳」『岡山県史』第18巻 考古資料 岡山県
⑧	造山古墳	北区新庄下	350	3	不明	葺石・ 埴輪	1921年 史跡	岡山市教育委員会 2014『史跡造山古墳 第一、二、三、四、五、六古墳保存管理計画書』、西田和浩・寒川史也 2021『造山古墳群発掘調査概報—2014～2020年度調査—』岡山市教育委員会
⑨	小造山古墳	北区新庄上 / 総社市 下林	146	3	不明	埴輪		前角和夫 1993「小造山古墳の埴輪について」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』10 総社市教育委員会、澤田秀実 編 2014『小造山古墳・小埴古墳 測量調査報告書』岡山大学大学院社会文化科学研究科 岡山大学考古学研究室

表 1 岡山市内大型前方後円墳一覧

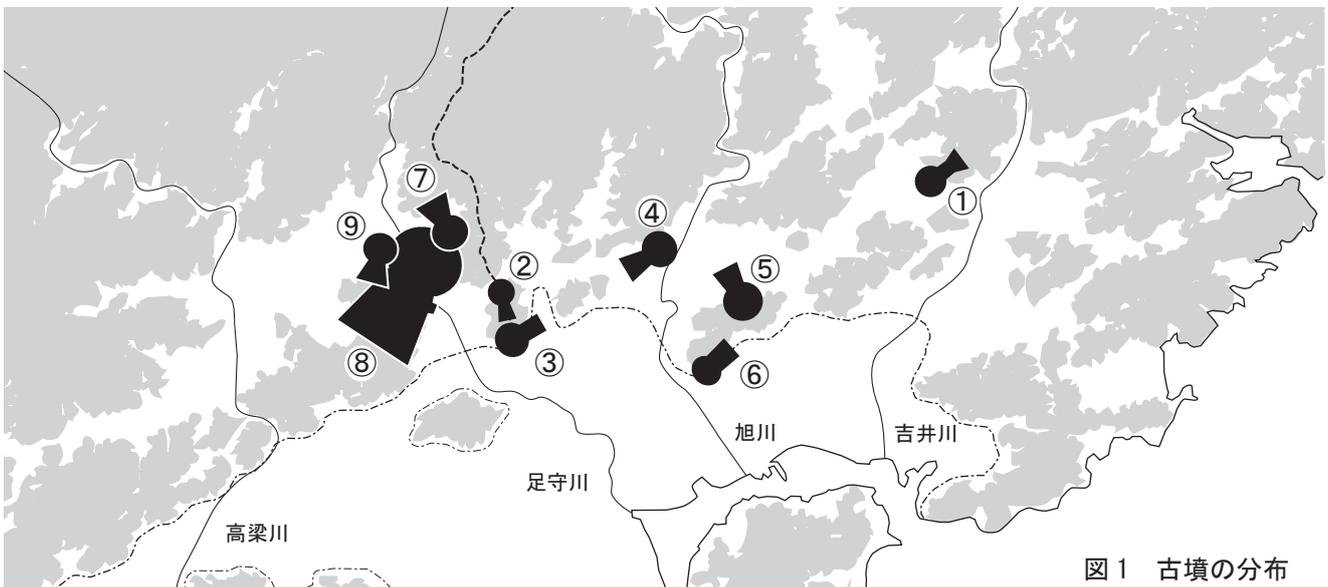


図 1 古墳の分布

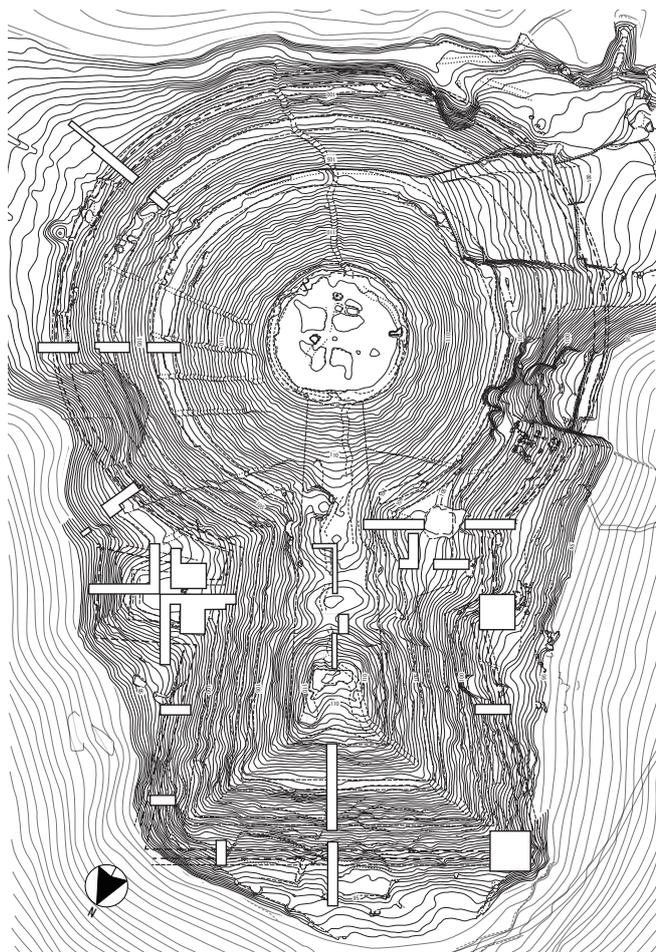


图 2 金蔵山古墳測量図

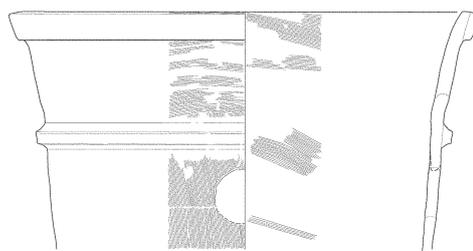


图 3 大型円筒埴輪

图 5 朝顔形埴輪

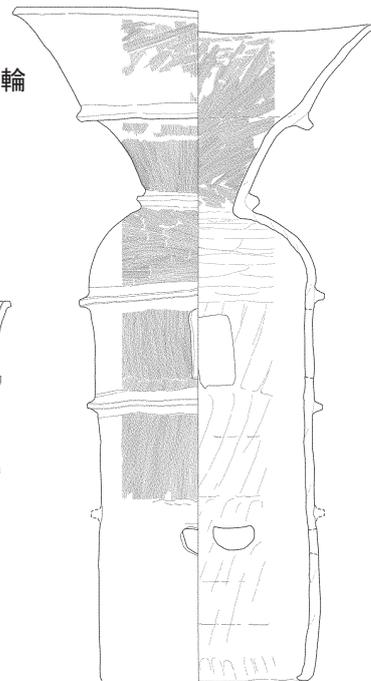


图 4 円筒埴輪

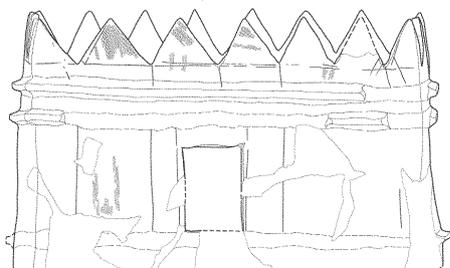
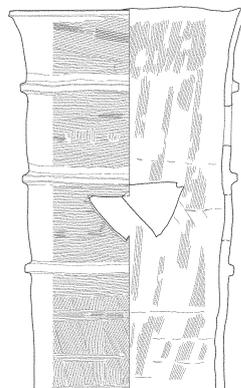


图 6 冢形埴輪

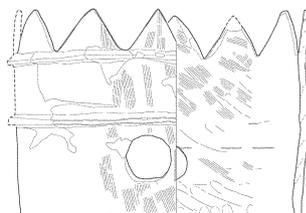


图 7 柵形埴輪

0 20cm

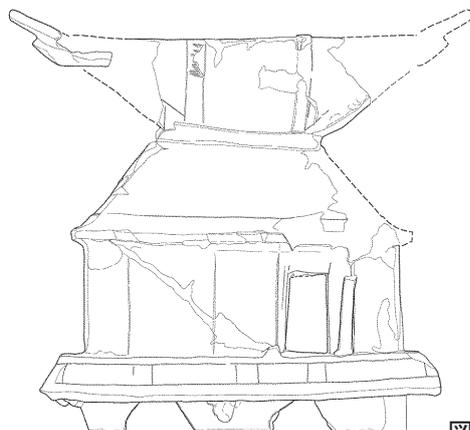


图 8 建物形埴輪

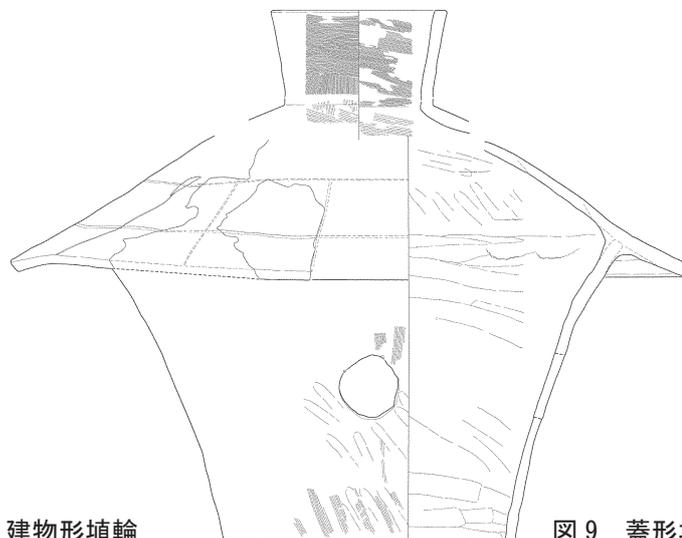


图 9 蓋形埴輪

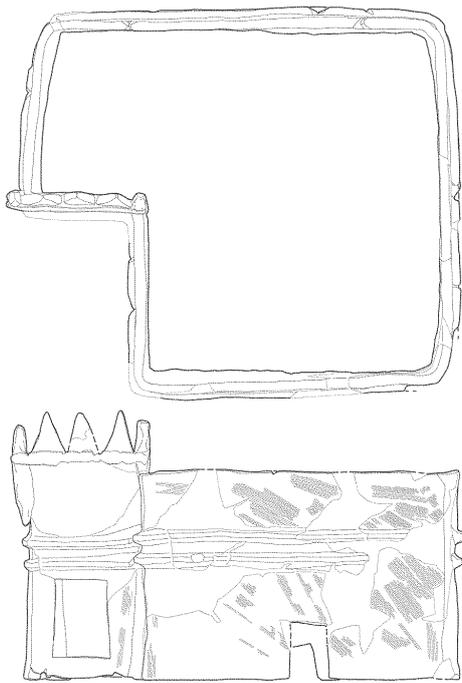


図 10 島状遺構側出土 冪形埴輪

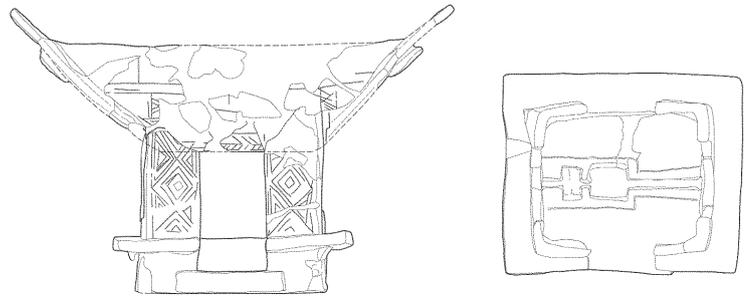


図 11 建物形埴輪とその内部（木樋の表現）

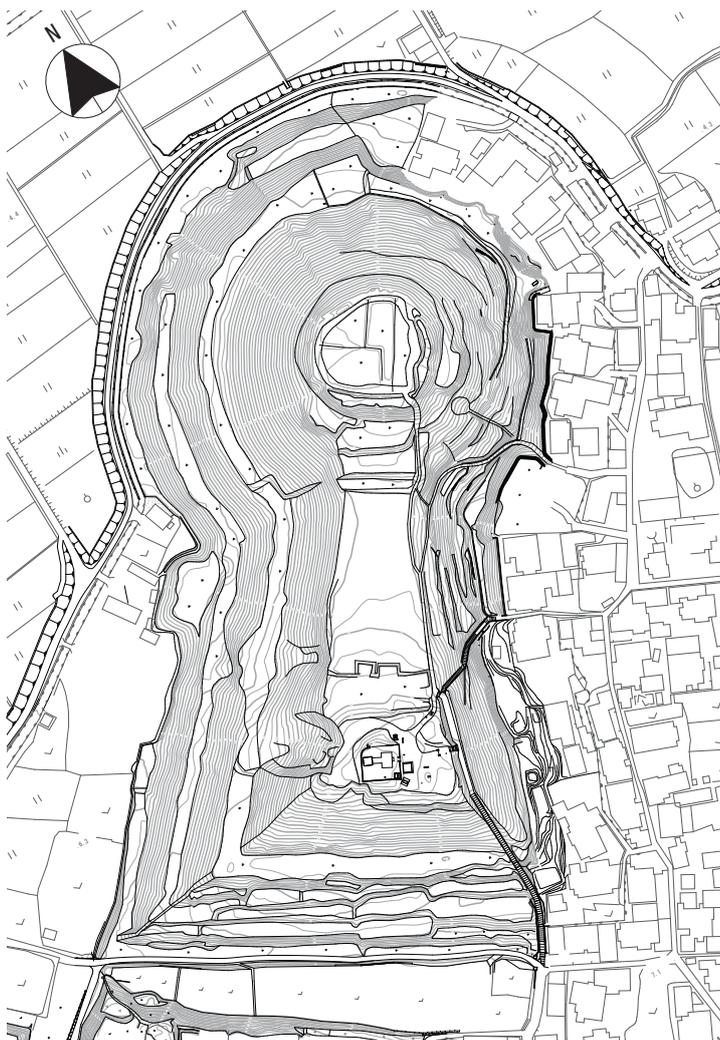


図 12 造山古墳測量図

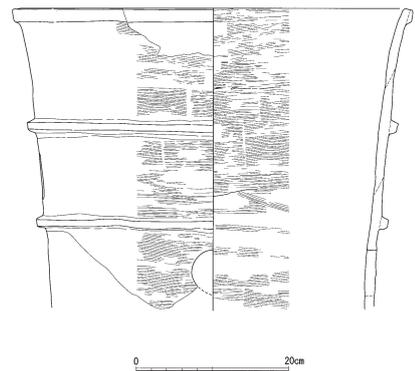


図 13 前方部側出土円筒埴輪

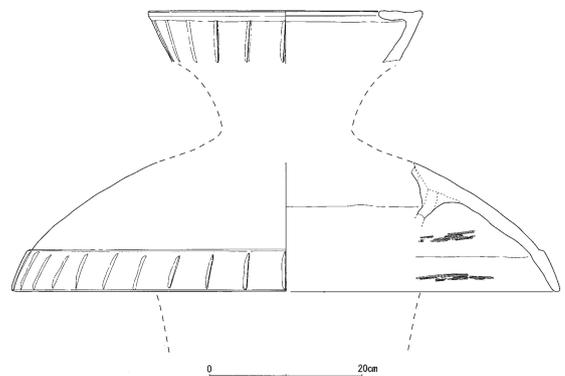


図 14 後円部側出土蓋形埴輪